

武漢における春節時期の消費動向について

春節（しゅんせつ）とは15日間続く旧暦の正月のことであり、中国では1年の中で最も重要な祝祭日です。日本の正月、つまり新暦の正月よりも盛大に祝賀され、中国のみならず、台湾やシンガポールなどでも見られます。

春節の間に武漢の人々は、帰省してきた家族と久しぶりに団欒ができたり、旧友との再会を果たしたり、一年の計画を立てたり、その内容はまさに日本の正月そのものです。

当然、15日間を快適に楽しく過ごせるよう、春節を迎えるための準備はどの家庭でも抜かりがありません。家族の服を新調したり、家族や来客者のために食卓を飾る食材を普段より充実させたり、爆竹・花火やお年玉用の新札を準備するなど、家庭によって購入品目は異なりますが、豊かな気持ちで充実した春節を過ごせるよう、普段購入しない商品も含め、さまざまな商品を購入します。

日本でも、正月前後は購買力が増加することから、小売店では年末商戦や新春バーゲンを行ないますが、春節の消費行動は、日本での正月前後の消費行動と類似しています。

今回は、武漢において春節時期にどの程度の消費があるかを、具体的な事例をあげて、ご紹介したいと思います。

【事例1】

朱さん（男性、50代、会社勤め）

春節が始まる前に、新しい服、1週間分の食材、新年回り用のお土産、爆竹、花火を購入。今年の春節はとても冷え込んだため、暖房とお風呂の湯沸かし機も購入し、春節の準備に約17,600元（約220,000円）かかりました。

【事例2】

楊さん（男性、30代、公務員）

洋服、食材、爆竹、お土産、新年回りや帰省のための交通費など、春節の準備に約6,800元（約85,000円）かかりました。

このほかに、春節の消費動向に大きな影響を与えるのは、天候です。例えば、家庭電化製品、中でも暖房器具は、武漢市の気温が1℃低くなると、1,000台多く売れるとのこと。

今年の春節は、初日から雪が舞い、気温が非常に低くな



賑わうデパートの周辺

ったことから、例年以上に暖房器具の消費が増加しました。

逆に、爆竹花火の消費は、去年は春節期間に7万セット販売されましたが、今年は5万セットしか売れませんでした。屋外で使用する爆竹花火は、厳しい寒さが影響し、前年比で28%あまりも消費量が減少しました。

また、春節時の消費は、流行にも左右されます。国美という家庭電化製品の大型小売店の関係者の話では、今年の家電製品の流行は、昨年日本でも流行した3Dテレビや、日本でも人気のあるapple社のiPhone 4Sで、こうした人気商品のおかげで、売上額が昨年同期の前年比で45%増加したとのこと。

こうした旺盛な購買力から、武漢市の今年の春節の消費額は、約82.1億元（日本円で約1,026億円）でした。



街中の爆竹屋さん